

平成28年度 第2回小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成29年3月30日（木）14時00分から16時00分まで

場所：JA東京むさし小平ファーマーズ・マーケット（2階会議室）

2 出席者

(1) 委員

10名（関委員長、上原委員、久保田委員、竹内委員、田中委員、内藤委員、長島委員、西田委員、信山委員、松原委員）

(2) 市側出席者

齊藤企画政策部長、企画政策部安部政策課長、同三野課長補佐、同横山課長補佐、地域振興部板谷産業振興課長

(3) 傍聴者

4名

3 配布資料

資料1 地方創生に係る交付金について

資料2 平成28年度当初予算において地方創生推進交付金の充当を見込んでいた事業の実施状況

資料3 平成29年度当初予算において地方創生推進交付金の充当を見込んでいる事業の概要

資料4 東京郊外型の女性の新しい就労推進事業の実施状況

4 内容(議事要旨)

(1) 地方創生に係る交付金について

資料1を用いて事務局より、平成28年度及び29年度以降に係る交付金と実施事業の関係等について説明をした。

(委員) 地方創生加速化交付金と地方創生推進交付金の話が出てきて、若干わかりづらかったかもしれない。加速化交付金は、平成27年度の補正予算で計上したうえで、繰越明許費として、実際の事業は平成28年度に実施した。地方創生推進交付金は、平成28年度予算に計上され、事業の実施も平成28年度ということで、いずれの事業も平成28年度に実施している。何か質問等あれば。

(特に意見等なし)

それでは、この後にも交付金を活用した事業の説明があるので、何かあればその中でご意見をいただければと思う。

(2) 平成28年度の事業の実施状況

資料2を用いて事務局より、平成28年度において地方創生推進交付金の充当を見込んでいた3つの事業(7月の第1回推進委員会において説明した事業)について実施状況の説明を行った。

(委員) こちらは、平成28年度本予算の内容となる。1点目の事業は出会いの創出ということで、結婚支援の一環としてダンスイベントを行うもの。市としては思い切った事業との印象がある。JAも女性職員がたくさんいらっしゃるが、印象としてはどうか。

(委員) 農協でも、出会いに関する事業を行っている。これは、農業後継者対策の一環としてだが。市の事業についても、職員に案内を出す形で協

力させていただいた。

(委員) このような事業は、1回だけでは中々効果が出にくい面もある。市内には大きな事業所もあるので、引き続き取り組んでほしいと思う。

(委員) 2点目の事業について、観光まちづくり協会の会員は、具体的には何をするのか。

(事務局) 地域・民間が主体となって、ワーキンググループをつくり、その中で考えて事業を実施していく。また、会員以外にもサポーターとして賛同者を募り、皆で観光まちづくりを行っていく。

(委員) J Cではどのように受け止めているか。

(委員) J Cも、協会に加入している。会員について声掛けもしているが、まだ何をしていくかが見えにくい面もあるように感じている。

(委員) 市民が企画をたてて行うとのことだが、予算については、市による縛り等はあるのか。

(事務局) 今年度は、ポータルサイトとガイドブックを作成した。予算については、こだいら観光まちづくり協会の事業計画に沿って執行していく。ポータルサイト等については、レポーターがまちに出かけ、取材した内容を発信するなど、ボランティアが主体となって運営する。

(委員) 大事なご質問だと思う。協会が予算を持っていると考えて良いのか。

(事務局) 協会が市から補助金も受けて事業を実施していく。今後は自主財源も得ながら、自由度の高い運営をしていくことを想定している。

(委員) 3点目の創業支援について、MAとか特許の買取り等がないと、イチからの創業は難しい面もあるかと思う。ここでいう創業は、第2創業も視野に入っているのか、それとも純然たる創業か、と感じる。

(委員) 行政がすべきことはどこまでか、ということを見ると、市民に近い

ところでの入口という部分が、それに当たるのかなとも思う。2次創業などは商工会や金融機関などが支えれば良いのではないか。

(委員) 創業は、現実には厳しい面も多い。ママ達が（主たる生計者ではない形で）行うのならまだ取り組みやすいかなとも思うが。

創業の期間も、あまり短く見られると、立ち行くのは大変。

(委員) 向いていない人は止めるのも、ある意味重要かもしれない。創業塾の中で、そこも含めて学べるのかと思う。そういう意味も含めて、良いプラットフォームが出来たのではないか。

(委員) 私も創業者の一人。つくことはそれほど難しくないが、続けていくのが大変な面ある。追跡してサポートすることも重要かと思う。

(委員) 「こだいらコワーキングスペースすだち」でも創業支援は行っていると思うが、そちらはいかがか。

(委員) 女性を対象としたセミナーを「すだち」で行っており、今日もつい先ほどまで行っていた。アイデアベースで終わりというのが多いパターンだが、お金が回らないと意味がないことを強調し、裏付けを含めたプレゼンを受講者にしてもらった。いつの時期に何をするか、他人が聞いて判るようにプレゼンする準備をするよう、宿題をだして1週間。それぞれがしっかりと考えたプレゼンを行っており、今後の道すじが見えてきたように感じている。

(委員) うまく進んでいる様子が伝わってきた。話はもとに戻るが、創業に関する個別相談は、件数としてはそれなりにあるものか。

(委員) 創業を考える人の割合は、このへんだと、やはり中央線沿いが多い。そこから一步入った地域については、創業を考える人の件数は比較的少ない状況。そのような中で、今回の創業支援事業により、切りこむ

一步を踏み出せたのではと思う。

(委員) 先ほど、農業後継者の話も出たが、例えば、援農と創業が結び付くような形が出来てくると面白いように思う。産業と農業を縦割りにせず
に考えていけると良いのでは。

(委員) J Aのマーケットで売る物のパッケージを、例えば「すだち」でデザインする
ような、農業と創業とプチ創業がつながるような連携の仕掛けがあると良い。ママ達
にモニターをお願いしていくことが、6次産業化にもつながる。市が何でも出来るわけ
ではないので、J Aでも是非取り組んでみてほしい。

(委員) 「すだち」には主婦目線があるし、セミナー参加者にはデザイナー等も
いる。そのへんを生かしていただけると嬉しい。

(委員) J Aで扱う加工品の味やパッケージについて、現状は内部で決めているが、
確かに外部の力が入る方が良いように感じている。

(委員) 創業塾の参加者数について教えてほしい。

(事務局) 個別面談は月に1～2名程度。創業塾は5回の連続講座で各回10人
程度の参加があった。また、創業セミナーも10人程度。

(委員) より広くアナウンスをする必要があるのでは。

(委員) 他市と比較して少ない数字ではない。PRといっても、どこにどう向
かって行くかということもある。創業ということは、そもそも多くの
人にとってハードルの高いことであり、コツコツとやっていく必要が
ある。

(委員) 逆に、参加した人は強い希望をもった人達とも言えるのではないか。

(委員) 都心や繁華街でなく、わざわざ小平市で創業しようという人は、こだ
わりや愛着を持っているケースが多い。まだまだ小さな創業を考えて

いる人が多い状況。今は、ようやく一步を踏み出したところ。

ちなみに、農と産業の関係については、私から見て、小平市は他市よりも近い関係にあると思う。

(3) 平成29年度実施予定事業の概要

資料3を用いて事務局より、平成29年度において地方創生推進交付金の充当を見込んでいる3つの事業について、概要の説明を行った。

(委員) 各事業が連携して効果をあげていければと思う。

(委員) 中々「すだち」にうかがえずにいるが、私の周りにはママ達も、きっかけがあれば何かしたいという人はいる。私も参加していきたい。私の周りでも「すだち」のことをまだ知らない人もおり、先日行われた商店街のハロウィンイベントで知った方も多いうだった。このような機会を生かしてもらえればと思う。

(委員) かつてと違い、色々な選択肢が増えていることを、伝えていくのが社協の一つの役目かと考えている。社協としても、うまく橋渡しをしていきたい。

(委員) 「すだち」と社協の連携も、あって良いのでは。

(委員) もちろん。連携していければと思う。

(委員) 子育て応援サイトについて、これまでも市民の中からニーズは寄せられていて、ここで予算がついて実現したことは大きいと思う。発達段階ごとに情報が分断されているという声がこれまで寄せられていたので、サイトによりトータルな情報収集が出来るようになると良い。これまでも子育て世代の意見を取り入れながら構築したとは理解しているが、さらに良いものにしていただければと思う。

(委員) 私の知っている事例では、ネットで相談事業まで行っていた例もあった。これは、今後の市役所の取組ということにもなるかと思うが、ネットからリアルにうまくつながる体制が出来ると良いように思う。

(委員) 池袋や板橋は、少し前までは子育ての点で人気のない地域だったが、図書館などを入口としてコミュニティを形成していったことで、今は人気の地域となっているという。板橋では、区を3エリアに分け、それぞれ別に委託して、競争が働くようにしているという話も聞いた。公民館でお金をとって良いかということも、最近議論になっている。小平市も今スクラップアンドビルドの時に、1つの場所で1つのことという時代ではなくなってきており、1つの施設が複合的な役割を担う時代になっていると思う。

(委員) 今のお話も重要だと思う。社会が変わってきているので、公民館や図書館もあり方が変わり、創業と結びつく余地があっても良い。

(委員) 小平市では保育園が増えているが、人口も増えており、自分の子が入れられるか心配を感じている。保育ママなどもあるので、そういう人が活躍しやすいようになっていくと良い。

(委員) 今の話から、地方創生の観点では、交付金事業だけでなく周辺事業もみていく必要を感じる。ちなみに小平市の待機児状況は？

(事務局) 平成28年4月で170人程度。この4月で8園（小規模保育園1園含む）増設し、定員は400人以上増える予定となっている。

(4) 平成29年度実施予定事業の概要

資料4を用いて事務局より、平成28年度に実施した「東京郊外型の女性の新しい就労推進事業」の実施状況を説明し、その後竹内委員より、実際の「こ दौर コワー

キングスペースすだち」の状況ということで、ワンデーキッチンやワンデーサロンが始まっていることや、スキルアップ等に係るセミナーの開催状況等について説明があった。

(委員) ひとつおりの説明も終わったので、最後に一人ずつ、お話しいただければと思う。

(委員) 社協では、4月から「まちの相談員」という事業を始める。地域に向いてニーズを把握し、コーディネーター役になることを考えている。今お話しいただいた多くの取組について、ニーズとつなげて行ければと思う。

(委員) 創業支援について、これだけ参加者がいるということは、もっと周知すれば、さらにニーズがあるのではと思う。小平市は駅が多く、それぞれの駅前に商店街があるが、元気はない。知恵を出し合って、情報発信やアピールをしていけると良いのでは。

(委員) 「すだち」は現在フル稼働に近い状況。その中から芽も出始めている。皆さまのニーズを持ち寄っていただければと思う。

(委員) 地方創生の取組が、「すだち」のようにカタチになったことは素晴らしい。テレワークは、仕事を出す企業の側からすると、顔が見えずに不安もあると思うので、成功例をウェブ上で発信する等して、企業に安心感を持たせられると、仕事も来やすくなるのではと思う。

(委員) このファーマーズ・マーケットも、まちづくりの面で、まちの景色を一つ変えられたのかなと思う。私は4月に異動で小平から本部に行くことになるので、その中でも、JA外部と連携しての6次産業化等、今日の委員会で話に出たことを考えていきたい。

このファーマーズ・マーケットについては、将来的には「道の駅」に

出来ればという想いもある。道の駅は現在、東京都では八王子にしかないので、実現すれば「都心から一番近い道の駅」になる。そこで「すだち」の情報等も発信出来ると良い。ただし、道の駅は行政が必要としなければ出来ないで、まずは機運を高めていければと思う。

(委員) 市がきっかけをつくり「すだち」が出来た。今後、民間が行う2号店、3号店の計画や仕組みづくりが必要になるかと思う。

近隣市同士で似たことが起こっているのが多摩地区。小平だけで考えず、近隣市含めて連携が出来れば、コストも下げられるのでは。

(委員) 多摩全域で、職住近接型のプラットフォームが出来ていく動きが、ここから出来ると良い。行政はそれぞれの自治体で独立しているので、金融機関等が取組をつなぐ役割を担ってもらえると良いのでは。

(委員) 取組の成果が見られて、勉強になった。高齢化社会の中でノウハウを次に継承していく面に課題があることを、税理士をしていて感じる。子育て支援について、シニアで興味のある人はいるが、プライドなどもあり、直接何かをするのは難しい面もあるのではと思う。シニア層はお金を持っているという面もあるので、寄付してくれる人達をうまく募ることが出来ると良いのでは。

(委員) 今日の話を持って帰り、子育て世代中心に伝えていきたい。

(委員) 私自身が、働く子育て世代。夜や土日なら、子どもを連れての参加などもしやすいと感じた。また、私も以前保育園勤務をしていて感じたことだが、保護者の方は、先生には話しにくいことも多い。サイト等で、顔が見えない方が話しやすい面もあるのではと思った。

(5) その他

次回の日程は、追って連絡することとする。

以上